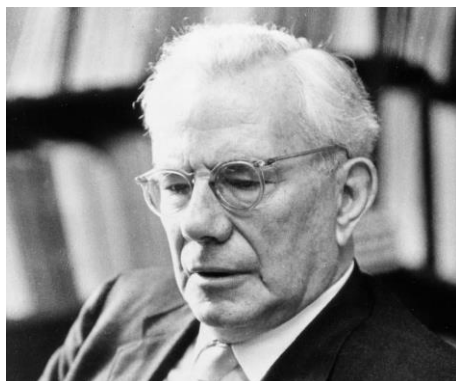


『Mind Charging』

第 89 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 7 月 29 日

パウル・ティリッヒの名言



The first duty of love is to listen.

愛の第一の義務は、耳を傾けることである。

愛情に“義務”なんて存在するのかもしれないと思いますが、彼の中では存在するようです。この言葉についていろいろと考えている中で、いくつかの解釈を私の中ですることができました。まず、耳を傾けることというのは、『助け合い』の精神が何よりも大切だという“思いやり”を感じます。彼は敢えて“義務”という言い方をしていますが、やはり愛情が自分の心の中から自然に出てくるように生きようというメッセージだと思います。

次に、『愛情表現の方法がわからない』という人に対して、“まずはこれからやってみなさい”というアドバイスではないかということです。耳を傾けてもらった人はきっと自分に対して心を開いてくれると思います。それを感じられた瞬間に、きっとお互いがお互いから愛情を受けたことを実感できると思います。その時に『愛情の表現法なんて人それぞれであり、形にこだわる必要はない』ということに気づけるはずです。そして、『義務＝当たり前』ということです。様々な義務があると思いますし、中には簡単なこともあると思いますが、基本的にはできないことを義務にはしなないはずです。『耳を傾けることを当たり前にする心豊かな心があれば、お互いを支え合う愛に溢れた世界を創造できる』というメッセージとして私は受け止めました。

誰かのおかげで助けられることもあるのだから、自分も誰かのために力を注ぐことは当たり前です。スケールを大きく言えば、愛情は、人種や言語の壁を一瞬で乗り越えられるパワーを持っています。また、通貨の価値の差のようなことには関係なく、常に等価交換できるのは『愛情』です。その時々自分の置かれた状況によって余裕が持てないこともあります。できない理由を探すより、できる状況を作り出すポジティブなマインドが私たちの心を育てると信じています。強さ・喜び・安堵など、ポジティブなエネルギーが出た時には笑顔が付きものです。世界を笑顔でいっぱいにしましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

パウル・ティリッヒ(Paul Johannes Tillich, 1886年8月20日 - 1965年10月22日)は、20世紀のキリスト教神学に大きな影響を与えたドイツのプロテスタント神学者。組織神学、宗教社会主義の思想で知られる。20世紀においてカール・バルトと並ぶ神学者であり、その影響は広く哲学や思想、美術史に及ぶ。ベルリン近郊の村で牧師の子として誕生した。ベルリン大学に進学し、そこで神学や哲学を学んだ。(Wikipedia 参照)